

小児の「ぜんそく」治療

◆「ぜんそく」とは？

「ぜんそく」は、「ほこり」を吸う、煙を吸う、走る、大笑いする、風邪をひくといった気道に対する刺激により、気管支が狭窄し、呼吸困難（発作）をおこす病気です。気管支が刺激に対して過剰に反応すること（気道過敏性）が原因となっています。

気道過敏性を亢進させるものとしては、整備不十分な生活環境や気道感染により悪化する、気道炎症が考えられています。生活環境の整備には、ダニ等のアレルゲンや大気汚染、受動喫煙等への対策が大切です。

◆こどもの「ぜんそく」の日常対策

「ぜんそく」の日常生活における対策は、上記した発作や気道炎症、気道過敏性の原因を取り除くための「生活環境の整備」と、「薬物治療」、「鍛錬」が3本柱と考えられています。治療目標は「ぜんそく」発作を

起こさないことと、肺機能、気道過敏性の改善です。

近年、ステロイド吸入薬治療を中心とした「ぜんそく」の薬物療法の進歩から、薬を使っている限りは発作を起こす子どもさんの頻度は減少しました。しかし、薬を中断すると「ぜんそく」が再発する可能性もあり、生活環境の整備、鍛錬の大切さも再認識されるようになってきました。

「ぜんそく」治療法は近年大きく変化していますので、「ぜんそく」のお子さんをお持ちの保護者の方は、かかりつけの先生と十分な相談の上、治癒をめざして治療の継続を図っていただきたいと思います。

J A 広島総合病院
小児科 岡島宏易

